

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800899		
法人名	力開発株式会社		
事業所名	グループホーム舞子		
所在地	神戸市垂水区舞子坂3丁目14番21号		
自己評価作成日	平成28年5月9日	評価結果市町村受理日	平成28年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2870600778&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2870600778&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成28年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしさに重きを置き、その人のニーズに添った支援をしている。</li> <li>・事業所としての理念を基本しつつ、レクレーションなど各フロアの特徴を生かしたサービスを提供している。</li> <li>・医療機関との連携を密にし、入居者の状態の変化に速やかにかつ適切に対応している。</li> <li>・介護技術の向上のため、職員が各種研修への参加や資格取得を行い、自己研鑽している。</li> </ul>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①<b>理念・方針に基づく運営</b>・事業所理念『安心生活』『健康サポート』『生きがいのある毎日』を基軸に、入居者の心に寄り添った支援が提供できるように全職員が一丸となって努めている。②<b>「食」を楽しく</b>・毎週日曜日に、入居者が希望した献立による食事を、食材購入から調理(包丁、下拵え等)、洗い物等、個々人の出来る部分を職員と楽しい会話を交わしながら一緒に作り、楽しい食事時間を共有している。又、季節を感じて頂ける食事として、行事食(おせち料理、恵方巻、ひな祭り寿司、土用の鰻等)や外食・出前も楽しみ事となっている。③<b>医療面での安心感</b>・協力医による往診や急変時対応(24Hオンコール体制)だけでなく、歯科・眼科・整形外科の訪問も受け入れている。認知症専門医による薬の調整や看護師の常勤配置も日々の生活に安心感を増している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、現場職員はミーティングの場で確認し合い、サービスの実践につなげている。	『『安心生活』『健康サポート』『生きがいのある毎日』』を事業所の理念とし、入居者へは心で寄り添い、プライドを傷つけず、失敗はそっとカバーし、ご本人の思いが叶う日常となるよう全職員が取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2カ月ごとに開催される運営推進会議にて構成員の方より情報をいただき、地域の行事に積極的に参加している。近隣の商店にも日々の買い物に出かけ、店の人と顔なじみとなり、交流している。	近隣商店での買い物(牛乳店等)、民生委員協力による近隣小・中学校との交流(昔遊び、音楽会等)、地域ボランティアの協力等、地域の中での日常が常態化している。	今後も、地域の方々の協力の下、地域における社会資源の一つとしての積極的な活動の継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で情報交換の中、認知症の人の介護を具体的にどうしたらいいか地域でお困りの方があれば、来設をと提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告・ヒヤリハット・職員研修など日々の状況を報告し、評価・意見をいただき実践に活かしている。	会議には主治医も出席し、入居者の健康面の報告もなされている。参加者とは、安全面・衛生面、地域交流、入居者と家族の関係性等について相談・検討しながら運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	胃腸炎が頻発した時、垂水区役所、保健福祉部、健康福祉課の方に来ていただき指導いただいた。市消防署より提案頂き、一人ずつの情報提供表を作成し、緊急時に即医療機関へ適切な対応につながるよう取り組んでいる。	運営面についての相談・報告等、市・区の担当者とは連携を密にしている。区のGH連絡会(区の職員も出席)にも参加し、事業所が閉鎖的にならないよう努めている。地域包括支援センターとも研修等で協力を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の研修実施により、全職員の理解は徹底しているが、各フロア共徘徊・外出を常時する入居者の危険を避けるため、フロア入口のドアのみやむなく施錠している。	研修・勉強会を通じて職員は、身体的拘束等の弊害について十分理解しており、入居者の「普通の暮らし」が実践できるよう「言葉かけ」に留意しながらさりげなく寄り添いながら支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修により、拘束とともに、虐待の防止および不適切な言動・ケアを正当化することがないよう、確認し合い、防止に努めている。	入居者への「不適切なケア」を払拭するための研修、事例検討を通じ、入居者が思い思いの日常を体現できるよう支援している。また、職員のメンタルヘルスについてもフロアリーダーを中心に配慮している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度はDVDで学習し理解をしてくれているが、実際には活用支援するまでに至っていない。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はおられない。職員は、研修を通して制度の内容について及び制度活用が認知症高齢者に対する支援の一方策として有用であることは理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族が理解されるようパンフレットなどを用いて説明を行っている。改定時には説明書を書き、わからないことは聞いていただける体制をとっている。また家族参加の行事の際に、説明の機会をもつなどしている。	契約前に、事業所見学、質疑応答、入居予定者のアセスメントをおこない、疑問・不安感がない状態で契約を締結している。重度化・終末期への対応方針も説明し、理解を頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の場で意見・要望をうかがっている。聴き取りシートに運営に関する要望欄を設け、聴き取る体制を敷いている。	運営推進会議、家族懇親会、行事参加時、来訪時、電話、意見箱等様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。頂いた意見・要望等は直ちに検討し、必ずフィードバックしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの声をフロア長会で管理者に伝え、反映している。	月例での全体会議・フロア会議の場で業務面に係る意見・提案を集約する機会を設けている。管理者・フロアリーダーとの個別面談による意見等も吸い上げ、実施しながらの修正も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて管理者は個人面談し、職員の個々の状況把握をしている。環境面では休憩室が整備され、運動器の設置など働きやすい職場となるよう整備に努めている。また夏冬には事業所負担で、職員が親睦できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は全員参加できるよう勤務体制に配慮し、参加できない場合の予備日も設定している。また個々の資格取得においても勤務の調整など学習しやすい環境となるよう便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホームは3ヶ月に1度、フロア長が参加。関係事業所の職員による自主運営の研修会も3ヶ月に1度希望職員が自由参加でき、情報交換され、習得したものを持ち帰り、サービスの向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1か月間初期行動記録を用意し、各職員が様々な場でのかかわりの中で、本人の要望・思いなど聴き取ったものを記載し、皆で共有しサービスの形を作っていく体制をとっている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の本人の日ごろの様子を観察する中で、家族の関わり方(初めは頻繁に面会を願うなど)を家族と共に作っていく。同時に、家族として困っていることを聴き取り、軽減されるよう何でも相談していただける雰囲気づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が困っている中での入居となる。聴き取り、支援していく。入居前より本人が腰が痛いと訴える。家族はそんな筈はないとのこと。そこで本人の希望に添い、本人の希望する病院へ行かれるよう助言した。本人は看てもらったことで安心し、その後穏やかに過ごしているなど様々		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできることはして頂けるよう(簡単な調理など)環境作りをしている。その人の生きがい作りになるよう配慮している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各フロア長及び当施設のご家族相談窓口の職員が情報提供し、家族の思いを聴き取り、共に本人を支えている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時には自宅に帰り隣近所の人と触れ合ったり、施設の方へ大学時代の友人が訪ねられたりし、会話が弾んでいる。また馴染みのスーパーへ買い物に同行するなどその人ごとに於いて支援している。	家族との行事参加、外出(買い物、食事、法要等)・外泊(正月等)、友人・知人の訪問、馴染みのスーパーへの買い物、入居前の居住エリアへのドライブ等、今迄の生活感ができる限り長く継続するよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に食事時間やレクリエーションなど共に楽しみ、互いに関わりあえる環境づくりに取り組んでいる。入居者同士の人間関係を職員は把握し、職員が間に入り、円滑にコミュニケーションできるよう支援している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族からの要望あれば相談に乗るよう努めている。退居後本人は亡くなられたが、しばらくして後、家族が相談に行きたいと話があった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから入居者とのコミュニケーションの中から、食べたいもの・出かけたいところ・何をしたいなどと要望や思いを聴き取り、可能な限り支援できるよう努力している。	入居者との日々の係わり(一対一での会話、言動、仕草・表情等)の中から、ご本人の望む事柄(したい、行きたい、食べたい等)を汲み取り、その思い・意向が実現するよう全職員でその情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりやサービス利用歴などは、本人・家族から様々に聴き取り、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく暮らせるよう、その人のペースを尊重し支援している。1日2回のバイタルチェックにて健康状態の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング・家族からの聴き取りシートを踏まえ、医療関係者と連携をとりながら、現状に合った介護計画を作成している。	入居者の思い・意向、家族の要望に、職員・医療従事者の意見等を踏まえ、今のご本人にマッチした有用性の高い介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス・モニタリングを見直し等に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに詳細に状況や気づきを記載し、申し送りを密に行うことにより全職員間で共有し、新たな問題や発見を介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	持病を持つ人が寝たきりとなり歯科通院が難しくなった為往診できる歯科医を探し、適切な治療を受けることができた。また多量の服薬でも症状が好転しないが病院を代えることを気兼ねしたためらっていた人に、家族と相談・助言し、症状に合った病院の受診により薬が減り、良好に生活して		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の構成員として民生委員に毎回参加いただき、地域の様々な情報をいただいている。その中より、小学校で開催される音楽会には毎年参加させていただいている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の主治医や歯科・眼科・整形の専門医には定期的に往診を受けている。必要時には家族の意向を聞き、主治医に他の医療機関を紹介していただき、適切な治療を受けられるよう支援している。	協力医(内科)による往診(月2回)及び急変時への対応(24時間オンコール体制)により健康管理を行っている。歯科、眼科、整形外科の訪問診療も受けている。薬の調整を含め認知症専門医のサポートも受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職が共同し、体調変化に早期対応している。看護師には変化や気づきを適切に伝えることにより、看護師の助言により受診し早期看過したケースもある。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	消防からの提案により、その人ごとの病歴・服薬・親族を記したものを前もって作成している。入院の際、今の状態を書き加え、病院に情報提供している。迅速にかつ的確に治療にかかってもらえるようにしている。退院時にはよく聴き取り、予後の生活を相談している。	入院中は入居者の不安感を軽減するため、職員が自主的に面会に行っている。家族とも情報を共有し、病院とは早期退院を前提に連携し、退院時には予後に不具合が生じないよう情報を入手している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を入居時に説明し同意をいただくと共に、必要に応じてターミナルの方針を家族や主治医と話し合い、皆で共有しながら最後までその人らしく生活できるよう支援している。	重度化・終末期の状況となった場合には、入居者ご本人にとって望ましいケア・「今」となるよう関係者(本人・家族、医療従事者、事業所)で相談・検討しながらすすめている。この一年で、3名の方を看取らせて頂いた。	職員の看取り支援の技術向上に活かさせて頂けるよう、支援内容をホーム内の職員間で共有・検証・検討する仕組みの継続に期待をしています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。のど詰りや誤嚥をはじめ、急変時の対応を適切に行えるようミーティングの機会をとらえ、確認し合っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防・非難訓練を実施し、災害マニュアルを基本に、ADLに合わせ迅速に対応できるようにしている。	定期(年2回:10月・1月)での通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している。地域住民も訓練に参加している。有事に備え、非常食、飲料水等を備蓄している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守れるような声かけや認知度に応じた対応をしている。言語が出にくい人には静かに待ち、話せる環境やふれあいなどに努めている。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心医士十分配慮しながら、今まで培ってこられた事柄(技能、趣味、習慣等)が日々の生活の中で希望に応じて発揮できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事は何を食べたいか聴き取り、リクエストメニュー日に提供している。お茶の時間には飲みたいものを聞いて提供。衣服なども自己決定できるよう声かけ、根気強く聴き取り、希望に添うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるよう聴き取り、カラオケやマージャン・DVDで映画を観たり、静かに一人居室で新聞を見たいなど、希望に添った暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに合わせたその人らしいおしゃれができるよう、着たい物を複数の中から選択できるよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聴き取りし、日曜日のリクエストメニュー日に実施したり、買い物に同行し食べたいものを購入したり、お節料理の下準備・節分の巻きずしと一緒に巻いたり楽しんでいただいている。	日曜日のリクエストメニューの日には、入居者が献立をホワイトボードに書き込み、食材購入、調理、洗い物等を職員と会話をしながら一緒に行い、楽しい食事時間を共有している。行事食や外食等も喜んでおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック・食事量チェックを管理し、個々の体調を考慮しつつ、嚥下困難な方には応じた形態や提供方法を工夫し、必要量の確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態により歯科医師の指示のもと、起床時・食後・入眠時には口腔ケアを介助、または自立で行える方には声かけにて促し、実施している。今回初めて往診歯科医より社内講習受け、全職員で口腔ケアの重要性を学習した。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁による不快を避けるためパットを装着している人も、排尿パターンをチェック表にて管理し、トイレで排泄できるよう支援している。	入居者個々の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、本人の状況に応じた方法でトイレでの排泄が行えるように支援している(2人介助あり)。夜間帯はパット交換、ポータブルトイレの方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携し、整腸剤や漢方・緩下剤等で調整しているが、基本的にはヨーグルト・牛乳など食品、またその人に合わせた運動を勧めたりして、スムーズに排便(泄)できるよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせていつでも入浴したい時に入れるよう、また拒否などで入らない日が続かないよう声かけし、保清に配慮している。	週2~3回の入浴を基本にしているが、希望により多い方もおられる。職員との会話も楽しんだり、ゆったりゆつくりとした入浴時間となるよう支援している。外湯に行かれる方もおられる。季節湯も喜んでおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室を清潔に保ち室温に配慮し、体調により日中でも臥床することが望ましい場合、休息を声かけし良眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は情報書で内容を共有している。服薬時は基本有資格職員一人で責任もって確실히行っている。副作用・用量については症状の変化など医師と細かく連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀・カラオケを好む方にはそれぞれ楽しみごとの支援、調理の下準備や洗濯物をたたむなど役割による達成感など、環境づくりに配慮し、張り合いのある暮らしになるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。外出を好む人には日常の買い物にスーパーへ出かけている。長時間は困難な人には近くの小売店へ牛乳を買いに行き、店の人と顔なじみとなり話などし、交流ができています。また買いたいものを希望する人にはその専門店へ同行し、吟味し選んで購入できるよう支援している。	日々の散歩や近隣の商店への買い物外出等、外気に触れる機会が多い。希望者による小人数での外出、また、季節の花見等は、家族も参加しての楽しい非日常となっている。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察しますが、今後も今迄同様に「利用者の思いに沿った支援」の継続に期待をしています。



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の援助により手元におこづかいを持つ方には好みのものを購入の際自身で支払えるよう支援している。事務所預かりの方も希望のものが購入できるよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方にはフロアの電話で家族の声が聞けるよう支援している。携帯電話を持ち自由に家族や知人の声を聞いておられる人もある。ご家族が海外在住の方は月2回スカイプを利用し、顔を見てお話ししている。また年賀状を出される方には記載不備ないよう声かけし支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて居心地良い設定温度と共に、その日に合った衣服など支援している。フロアの壁面には月ごとに入居者と考え作成更新し、リビングにはクリスマスツリー・鏡餅など飾り、季節感を感じられるようにしている。	明石海峡大橋が望める広い窓からの適度な採光、ソファスペースのあるリビング、季節飾りや入居者の笑顔一杯の行事写真が貼付されている壁面等、空調管理(室内温度)にも心配りがされており、心地よく過ごす環境が設計されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で自分のしたい事のある人には自由に独りの時間を過ごされている。編み物が好きな人同士、話が好きな人同士思い思いにソファー・リクライニングチェアに座りフロアで楽しく過ごされている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いたれた馴染みのあるものを自室に置き、落ち着ける場所として過ごされている。また安全に過ごせるようその人に合わせた環境整備にも注意を払っている。	使い慣れた馴染みの、大切なもの(筆筒、家族写真、仏壇等)を持ち込み、居心地の良い居室となるよう支援している。洗面台の設置、組み立て式クッションフロア等安全面・衛生面にも工夫されている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は安心して移動できるよう手すりを設置、トイレ・お風呂にはドアに表示し、場所を明確にしている。自分でできること・わかることが活かせる生活づくりを環境の面から支援している。		